

平成 16(2004)年 1 月～6 月 **長期漁況海況予報** 平成 16(2004)年 1 月発行



大分県海洋水産研究センター 879-2602 大分県南海部郡上浦町大字津井浦
Phone0972-32-2155 Fax.0972-32-2156 <http://www.mfs.pref.oita.jp>

海況経過<平成 15 年後期>

■黒潮

平成 15 年 8 月中旬まで、九州東岸海域では黒潮の接岸傾向が持続しました。8 月中旬～9 月中旬、豊後水道外域～紀伊水道外域では黒潮が接岸傾向となりました。9 月中旬～11 月中旬、複数の冷水渦が四国沖～潮岬沖を東進しました。11 月下旬、九州南東沖に規模の大きな小蛇行が形成され、12 月上旬、黒潮は九州南東沖でかなり離岸していました。

黒潮北縁と足摺岬及び都井岬との距離の状況は、7 月は接岸からやや離岸傾向、8 月～11 月は接岸傾向が継続し、12 月に入り都井岬で離岸傾向、足摺岬では離接岸を繰り返しました(図1)。

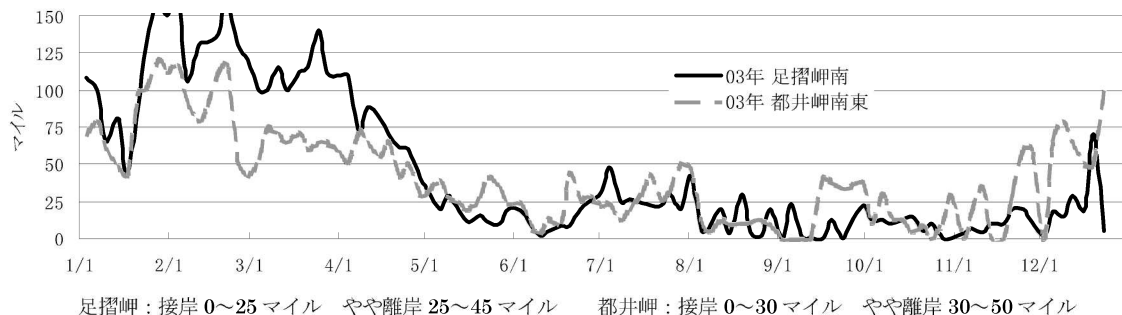


図 1 足摺岬南及び都井岬南東方向の黒潮北縁までの距離(南西東海沿岸海況速報による)

■水温

豊後水道の水温(0m、10m、20m、30m、50m及び75m層)は、「やや低め」～「きわめて高め」でした(表1)。大分県側の海域を北部(沿岸定線Sta.1-9)、中部(同Sta.10-16)及び南部(同Sta.17-22)に分けると、北部では7月、12月は「やや高め」、8-10月は「平年並」、11月は「高め」の傾向となりました。中部では7-8月、10-12月は「やや高め」の傾向となり、9月は「平年並」となりました。南部では7月、9月は「平年並」となり、8月、10-11月は「やや高め」、12月は「高め」の傾向となりました。

伊予灘と別府湾の水温(0m、10m、20m、30m及び50m層)は、「低め」～「やや高め」でした(表2)。7-8月、10月は「平年並」、9月は「やや低め」、11-12月は「やや高め」の傾向となりました。

■塩分

豊後水道の塩分は、「低め」～「高め」でした。8-9月に北部で「やや低め」、12月に南部で「高め」の傾向となった他は、期間中、「平年並」～「やや高め」の傾向となりました。

伊予灘と別府湾の塩分は、「低め」～「やや高め」でした。7月に「やや高め」、9月に「やや低め」の傾向となった他は、期間中、「平年並」の傾向となりました。

表1 水温の平年偏差評価（豊後水道2003年）

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
(北部)	0m	+-	-+	+	-+	+	+-
	10m	+	+-	+-	-+	++	+
	20m	+	+-	+-	+-	++	+
	30m	+	+-	+-	+-	++	+
	50m	+	+-	-+	+-	++	+
	75m	+	+-	-	+-	++	++
(中部)	0m	-+	+	+-	+-	+	+-
	10m	+-	+	+-	+	++	+
	20m	+	+	+-	+	+	+
	30m	+	+	+-	+	+	+
	50m	+	+	+-	+	++	+
	75m	+	+	+-	+-	+	+
(南部)	0m	-+	+-	-+	+-	+-	+
	10m	-+	++	+-	+	+	++
	20m	+-	+	+-	+	+	++
	30m	+-	++	+-	+	+	++
	50m	-+	+	-+	+	+	+++
	75m	+-	+	-+	++	+	+++

表2 水温の平年偏差評価（伊予灘・別府湾 2003年）

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
(伊予灘)	0m	-	-+	+-		+-	+
	10m	-	-+	-	欠	+	+
	20m	-+	-	-		+	+
	30m	-+	-+	-	測	+	+
	50m	-+	-+	-		+-	+
(別府湾)	0m	-	+-	+	+-	+	+-
	10m	-+	-	-	+-	+	+
	20m	-+	-+	-	+-	+	+
	30m	-+	-+	-	+-	+-	+

注) +++:きわめて高め ++:高め +:やや高め +-:高めの平年並
 -+:低めの平年並 -:やや低め --:低め ---:きわめて低め

海況の見通し<平成16年前期>

■黒潮

九州南東沖の小蛇行が平成15年12月後半に規模を縮小しますが、平成16年1月前半には発達し、2月前半～3月前半に四国沖を東進するでしょう。九州南東沖では3月前半に一時的に接岸傾向となりますが、3月後半に再び小蛇行が形成され、この小蛇行は4月後半～5月後半に四国沖を東進するでしょう。九州南東沖では5月後半以降接岸傾向となるでしょう。そして、黒潮の小蛇行や小規模な冷水渦の東進に伴って、沿岸域へ一時的に暖水が波及するでしょう。

■水温

「平年並」～「高め」でしょう。

■予測の根拠

中央水産研究所及び関係都県:平成15年度第2回太平洋イワシ・アジ・サバ等長期漁海況予報会議資料(2003)
 福岡管区気象台:九州北部地方3か月予報(2003)、九州北部地方寒候期予報(2003)

資源状況と漁況経過<平成 15 年後期>

■マイワシ

■ 一昨年までの経過

大分県漁協鶴見、米水津及び蒲江支店のまき網(特にことわりのない限り、まき網についての数値は、この3支店に関するもの)によるマイワシの漁獲量は、1986年以降の1990年までの間は、年間30,000トン前後あり、その大半は3月から7月に漁獲される体長15cm以上の「中羽」以上でした。1991年以降、「中羽」以上は減少傾向となり、一方、7月から9月に主に漁獲される体長10cm前後の「小羽」も、1993年に、一旦、増加しましたが、その後は低調に推移しました。全銘柄の漁獲量は1998年まで8年連続で減少し、1999年は前年に比べ僅かながら増加しましたが、2000年は再び減少しました。そして、2001年は1月下旬から2月中旬にかけてまとまった漁獲があり、約1,750トンと5年ぶりに1,000トンの水準を超えましたが、2002年は大低迷し、約1トンと過去最低値を記録しました(図2)。

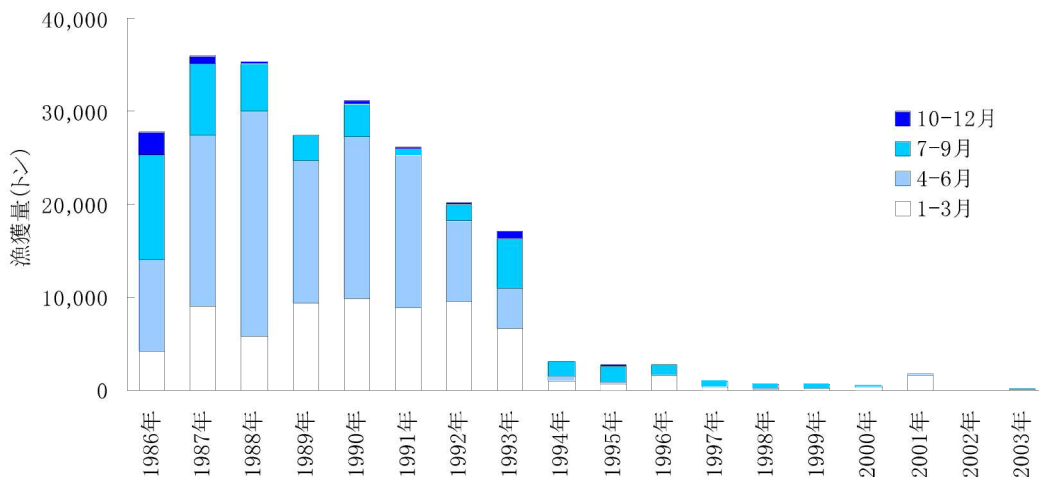


図2 マイワシのまき網漁獲量 (鶴見・米水津・蒲江支店)

■ 昨年の経過

2003年後半の月別漁獲量は、各月0～46トン、平年比0～4%と不漁が継続しました(以下、まき網の平年値を1986～2002年の平均漁獲量とする)。このうち、7月は46トン、平年比4%、8月は9トン、平年比1%となりましたが、9月以降はほとんど漁獲がありませんでした。

■カタクチイワシ(成魚)

■ 一昨年までの経過

まき網によるカタクチイワシの漁獲量は、これまで一年毎に増加と減少を繰り返しており、漁獲の多い年(偶数年)で2,000～3,000トン程度、漁獲の少ない年(奇数年)で1,000トン前後の漁獲となっていました。しかしながら、1999年には1月中旬から7月中旬にかけて豊漁が続き、過去最高の漁獲となりました。平年の漁期は6月から9月までが中心であり、1999年は漁獲量及び漁期とも特異的な年となりました。そして、2000年は約2,100トン、2001年は約2,800トンと比較的高水準となりましたが、2002年は約1500トンと減少しました(図3)。

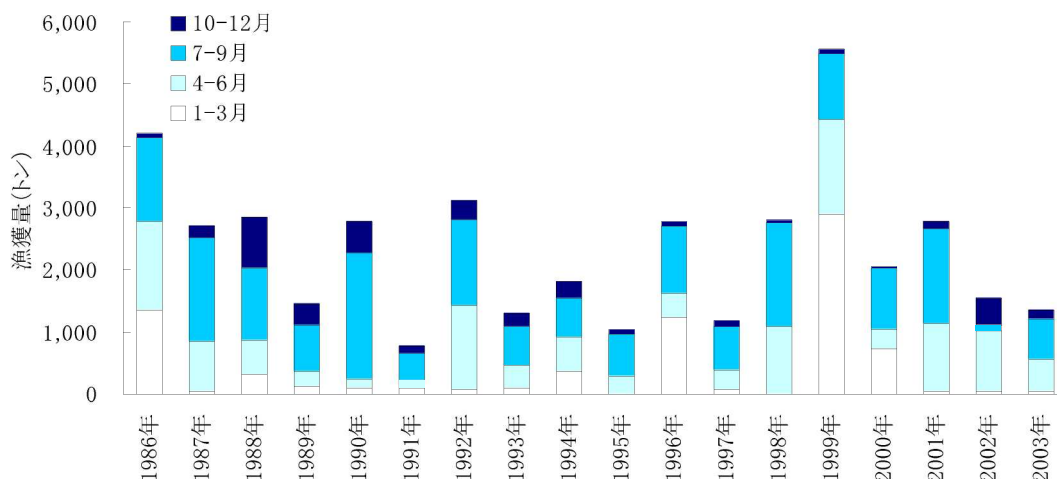


図3 カタクチイワシのまき網漁獲量 (鶴見・米水津・蒲江支店)

■ 昨年の経過

2003年後半の月別漁獲量は、各月1～383トン、平年比2～117%となりました。このうち、7～9月は655トン、平年比62%と低調でした。10月は135トン、平年比117%と平年を上回りましたが、11月は17トン、平年比26%、12月は1トン、平年比2%と低迷しました。

■ カタクチイワシ(シラス)

■ 一昨年までの経過

佐伯湾(佐伯・鶴見)の船曳網によるシラスの漁獲量は、1992年に約530トンの最高値を記録した後は、減少傾向となり、1995年には200トンを割り込みましたが、その後は、1993年以前の水準には及ばないものの増加傾向を示しました。しかしながら、2001年は約160トンと過去最低の漁獲となり、2002年は約210トンの低水準となりました。

別府湾(杵築・日出)では、1990年以降1,200～2,200トンの範囲で変動しましたが、1998年の漁獲量は、1990年以降初めて1,000トンを割り、約750トンと最低値を記録しました。そして、1999年以降は再び1,000トンを超える水準となりましたが、減少傾向を示し、2002年は約870トンと再び1,000トンを割り込みました。

白杵・津久見湾では、1991年以降0～106トンの範囲で大きく変動しており、2002年は15トンで、平年比46%となりました(以下、船曳網の平年値を1991～2002年の平均漁獲量とする)。

《 推計方法:別府湾の漁獲量=製品(ちりめん)重量×2.514、豊後水道の漁獲量=製品(ちりめん)重量×2.380 》

■ 昨年の経過

2003年後半の月別漁獲量は、佐伯湾では7～9月は167トン、平年比183%と好調で、特に8～9月は平年を大きく上回りました。10～11月は51トン、平年比58%と平年を下回りましたが、いりこサイズの漁獲は比較的好調でした。

別府湾では7～9月は488トン、平年比73%、10～11月は126トン、平年比55%と平年を下回りましたが、かえり・いりこサイズの漁獲は比較的好調でした。

白杵・津久見湾では、期間中、ほとんど漁獲がありませんでした。

■ウルメイワシ

■ 一昨年までの経過

まき網によるウルメイワシの漁獲量は、1986年以降100～300トン程度でしたが、1992年以降は増加傾向を示し、1996年には約2,300トンまで達しました。しかしながら、1997年以降は減少傾向に転じました。そして、2001年は約1,040トンと、3年ぶりに1,000トンを超える水準となりましたが、2002年は大低迷し、約35トンと過去最低値を記録しました。漁獲は夏期の6～8月が中心でしたが、近年は冬期の1～3月にもまとまった漁獲がみられました(図4)。

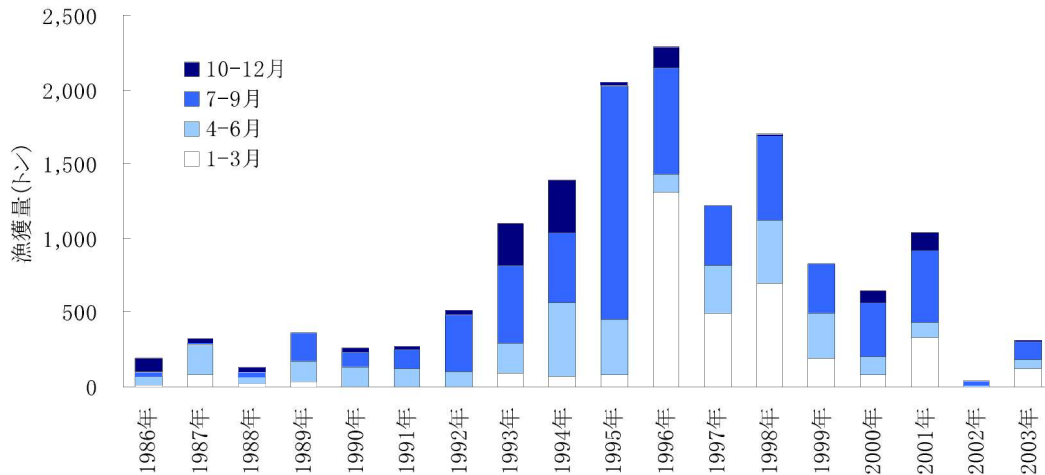


図4 ウルメイワシのまき網漁獲量 (鶴見・米水津・蒲江支店)

■ 昨年の経過

2003年後半の月別漁獲量は、各月0.3～63トン、平年比2～61%となりました。このうち、7～9月は115トン、平年比31%と平年を大きく下回り、10～12月は16トン、平年比22%とさらに低迷しました。

■マアジ

■ 一昨年までの経過

まき網によるマアジの漁獲量は、1986年以降減少傾向を示し、1991年に1,000トンを超えてきましたが、1992年以降は増加傾向に転じており、1998年には約7,500トンの漁獲量で、過去最高値を記録しました。しかしながら、1999年以降は2,000～4,000トン程度の水準に下がり、2001年は前半の不漁により約2,270トン、2002年は約3,800トンとなりました(図5)。

また、佐賀関支店の釣りを中心とするマアジの漁獲量は、1988年以降増加傾向が継続し、1999年には248トンに達し、過去最高値を記録しました。しかしながら、2000年は一転して170トン、平年比83%と落ち込みました。そして、2001年は196トン、平年比96%、2002年は210トン、平年比102%と、それぞれ前年を上回る漁獲となりました。(以下、佐賀関支店の平年値を1988～2002年の平均漁獲量とする)。

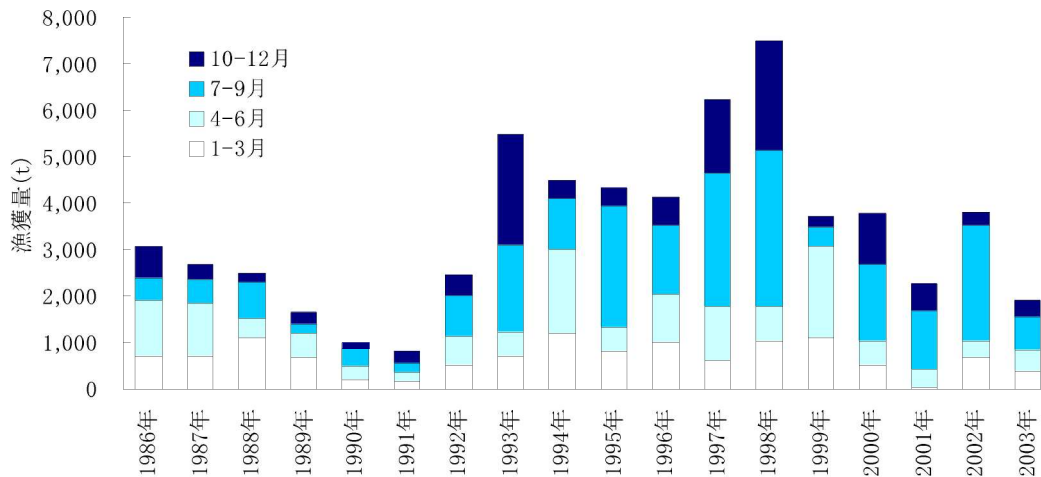


図5 マアジのまき網漁獲量 (鶴見・米水津・蒲江支店)

■ 昨年の経過

まき網の2003年後半の月別漁獲量は、各月31～404トン、平年比34～75%となりました。このうち、7～9月は724トン、平年比55%、10～12月は328トン、平年比46%と低調でした。

佐賀関支店の月別漁獲量は、7～9月は65トン、平年比114%、10～12月は47トン、平年比111%と好調でした。

■ マサバ・ゴマサバ

■ 一昨年までの経過

まき網による「さば類(マサバ・ゴマサバ)」の漁獲量は、1993年以降増加傾向を示し、1996年及び1997年には、それぞれ約14,000トンと約12,000トンをあげて豊漁となりました。しかしながら、1998年は一転して不漁となり、1986年以降初めて1,000トンを割り込みました。そして、1999年、2000年と低水準ながら増加傾向を示しましたが、2001年からは大低迷し、2002年は約180トンと過去最低値を記録しました(図6)。

「さば類」のうち、1994年以降はゴマサバが漁獲主体で、マサバの漁獲はほとんどない状況でしたが、大低迷した2001年及び2002年にはマサバの占める割合が比較的高い傾向がみられました。

また、佐賀関支店の釣りを中心とするマサバの漁獲量は、豊漁であった1992年と1993年を除き、ほぼ100～200トンの範囲で変動しました。1998年以降は120トン前後で横ばい傾向となり、2002年は148トン、平年比93%と平年を下回りました。また、2～3年の短い周期で増減を繰り返す変動傾向もみられました。

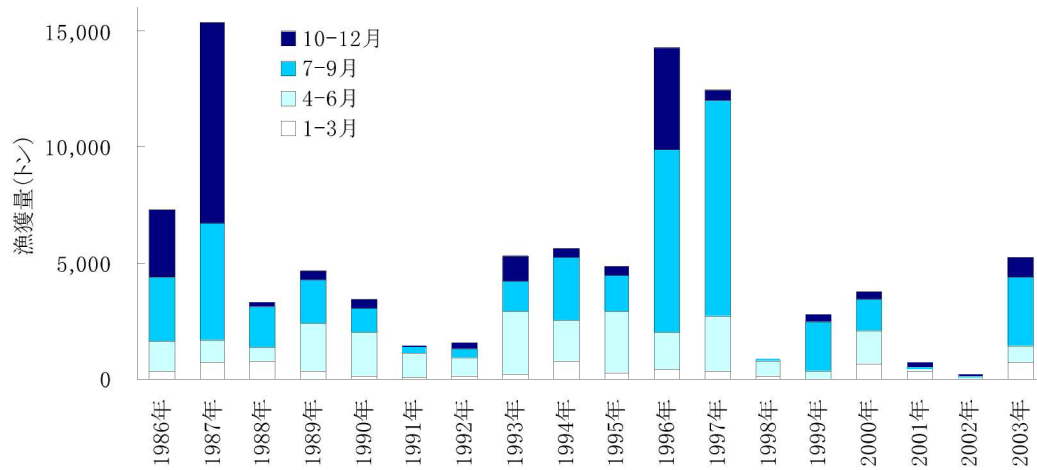


図6 マサバ・ゴマサバのまき網漁獲量（鶴見・米水津・蒲江支店）

■ 昨年の経過

まき網のゴマサバを主体とする2003年後半の月別漁獲量は、各月107～1,455トン、平年比30～254%となりました。このうち、7～9月は2,976トン、平年比128%で、特に7～8月は小サイズを中心に豊漁となりました。9月以降は不漁に転じ、10月は285トン、平年比42%、11月は107トン、平年比30%と平年を下回りましたが、12月は391トン、平年比223%と再び好調となりました。

佐賀関支店のマサバの月別漁獲量は、7～9月は84トン、平年比291%、10～12月は58トン、平年比216%と豊漁が継続しました。

漁況の見通し＜平成 16 年前期＞

■マイワシ

【太平洋系(北薩～熊野灘)の見通し】

来遊量は北薩から日向灘は混獲程度。豊後水道、土佐湾、紀伊水道外域西部では低水準の前年並みか前年をやや上回るでしょう。紀伊水道外域東部から熊野灘では低水準の前年を上回るでしょう。

[説明]資源量は1995年から1999年までは低水準ながら比較的安定していましたが、2000年から再び減少傾向が顕著となりました。2002年級群、2003年級群の豊度は低いと推定されます。

【大分県の見通し】

漁獲量は比較的大きな周期で増加あるいは減少すると考えられ、来遊水準は直前の漁獲水準と相関が高い傾向にあります。漁況経過からみると、来遊水準は依然として低水準でしょう。但し、過去2番目の最低値を記録した前年は上回るでしょう。



■カタクチイワシ

【太平洋系(北薩～紀伊水道外域西部の成魚)の見通し】

来遊量は北薩から薩南では前年並みでしょう。日向灘では前年をやや下回るでしょう。豊後水道西部では不漁の前年を上回り、東部では不漁の前年並みでしょう。土佐湾では前年並みでしょう。紀伊水道西部では前年並みの低水準でしょう。

[説明]資源水準は高位、横ばい傾向にあると考えられますが、漁況経過からみると、来遊の低調な海域が多くみられます。なお、2003年級群の加入量は高水準である可能性が高いと予想されています。

【大分県の見通し】

成魚については、漁況経過からみると、10月を除き平年を下回る漁獲となっており、来遊水準は低いと考えられますが、2003年後半の小サイズ(じゃみ等)の漁獲が比較的好調であったことから、全体としては、不漁の前年は上回りますが、平年は下回るでしょう。

シラスについては、漁況経過(しらす～いりこ)からみると、来遊水準は佐伯湾、別府湾ともに高水準にあると考えられ、前年・平年並みでしょう。



■ウルメイワシ

【太平洋系(北薩～熊野灘)の見通し】

来遊量は北薩、薩南では前年を下回るでしょう。日向灘では前年並みでしょう。豊後水道西部では前年を下回り、東部では上回るでしょう。紀伊水道外域西部では低水準の前年並みでしょう。土佐湾、紀伊水道外域東部、熊野灘では前年並みか前年を上回るでしょう。



[説明]資源水準は中位、やや減少傾向にあると考えられます。漁況経過からみると、一部の海域を除き、来遊の低調な海域が多くみられます。

【大分県の見通し】

漁況経過からみると、来遊水準は低い状態で、減少傾向にあると考えられます。また、当該時期の漁獲量は前年3～11月の漁獲量と比較的高い相関($r=0.84$)があり、これから2004年前期の漁獲量を推定すると約113トン(前年比61%、平年比28%)の漁獲となります。従って、総合的に判断すると、前年・平年を下回るでしょう。

■マアジ

【太平洋系(薩南～日向灘・豊後水道)の見通し】

来遊量は豊後水道では前年を上回るでしょう。その他の海域では前年並みか前年を下回るでしょう。



[説明]資源量は良好な加入に支えられて1990年代に入り高水準で推移してきましたが、1997年以降、加入の減少とともに3年連続して減少しました。2001年には良好な加入により、資源は高水準に転じましたが、2002年には加入の減少がみられます。2003年級群の来遊量は海域によって高低があります。なお、2004年級群は予測期間の後半には加入してきますが、現在のところその来遊量は予測できません。

【大分県の見通し】

漁況経過からみると、来遊水準は2002年10月以降低い状態にあると考えられますが、当該時期の漁獲量は前年7～12月の「小」漁獲量と比較的高い相関($r=0.76$)があり、これから2004年前期の漁獲量を推定すると約1,117トンの漁獲(前年比133%、平年比76%)となります。従って、総合的に判断すると、不漁の前年は上回りますが、平年は下回るでしょう。

■マサバ・ゴマサバ

【太平洋系(薩南～日向灘・豊後水道)の見通し】

来遊量はゴマサバ1歳魚は多かった前年を下回り、2歳以上は前年を上回るでしょう。マサバは低水準でしょう。さば類全体としては、好調だった前年をやや下回るでしょう。薩南では前年を上回るでしょう。



[説明]ゴマサバ資源は近年では1996年級群が卓越年級群で、1999年級群がそれに準ずる年級群であったと推定されます。2000年級群、2001年級群及び2002年級群の加入量は比較的安定しており、太平洋側全体としては、1999年級群よりは低い水準ですが、豊度が低かった1997年、1998年と比較してかなり高いと言えます。2003年級群の加入量も比較的多いと推定されます。残存資源量は2002年級群が主体となっています。ゴマサバの資源水準は中位、横ばい傾向にあると考えられます。また、マサバの資源水準は低位、減少傾向にあると考えられます。

【大分県の見通し】

漁況経過からみると、来遊水準は7～8月の高水準から、9～11月の低水準へ、そして再び12月の高水準へと変動していますが、2001年、2002年の最低水準からは既に回復しており、夏場を中心にゴマサバ1歳魚にまとまった漁獲がみられることから、全体としては、前年・平年並みでしょう。

その他

■予測の根拠

中央水産研究所及び関係都県：平成15年度第2回太平洋イワシ・アジ・サバ等長期漁海況予報会議資料(2003)

■問い合わせ先

この予報に関する問い合わせ先は、大分県海洋水産研究センター 企画・海洋資源利用部まで
(〒879-2602 大分県南海部郡上浦町大字津井浦 電話0972-32-2155 ファクシミリ0972-32-2156 e-mail:
a16411@pref.oita.lg.jp)